

□新潟県中越大震災における ボランティア活動について

新潟県川口町社会福祉協議会 事務局長 小山 和 夫

はじめに

平成 16 年 10 月 23 日 17 時 56 分、突然震度 7 の激震が川口町を襲った。

全壊 1,105 棟、大規模半壊 208 棟、半壊 545 棟、全半壊率 42.2%、死者 4 名と多大な被害を被った。地震直後には、町民全戸に(1,595 世帯 5,692 人)に避難勧告が出され自宅からの避難を余儀なくされる。電気を始めガス、水道、下水道等のライフラインは全て使用不能となる。又鉄道、高速道路、国道など川口町に通じる交通網も全て不通となり、電話等の通信手段も不通となる。

このような中でのボランティア活動について述べる。

ボランティアセンター設置状況

公共建物が使用できない中、まずセンターの場所を確保することが必要であった。そこで社協の脇の駐車場にテントを張り、県社協(県ボランティアセンター)の協力を得ながら昨年 10 月 30 日災害ボランティアセンターを立ち上げました。社協の施設は在宅で介護サービスを受けている高齢者

を中心とした避難住民を受け入れて、職員はその介護に従事したため、ボランティアセンターの運営は県外から駆けつけてくれた長期滞在者ボランティアが中心となりました。

屋外でのボランティアセンター設置であり、センター機能を維持するための事務機器、電気、電話、テント等を備えるために、町、県、駆けつけてくれた社協、ボランティア団体から必要なものをそろえた。

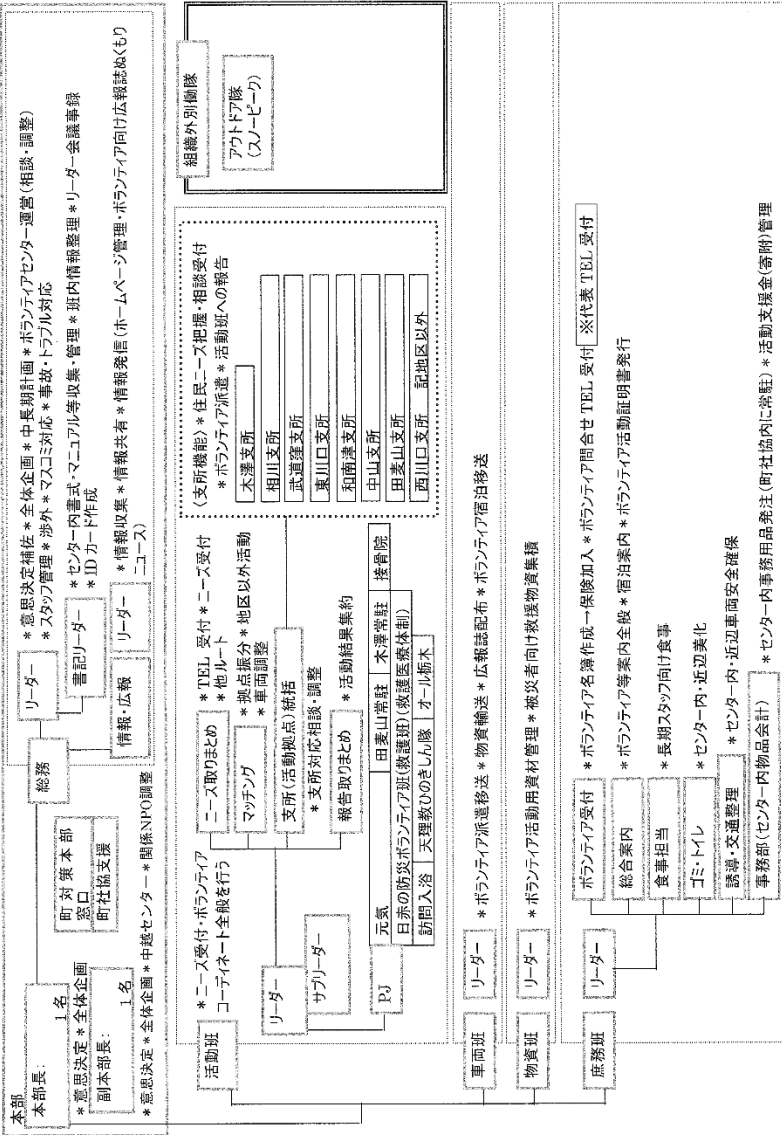
発電機、印刷機、コピー機、ファックス、パソコン、携帯電話、事務用品(用紙、ガムテープ、筆記用具)机、いす、コンテナハウス、仮設トイレ、電気配線工事、無線機の設置、管内地図等を確保し、ホームページの開設、ぬくもりニュースの発行(住民への情報伝達)等の活動を行った。

組織体制として庶務、物資、広報、総務、活動班を立ち上げ行政との連絡には役場職員が 1 名入り行政と連携をとれる体制をとった。

住民及び、社協も災害時のボランティア活動は、初めてであり活動内容、方法等は駆けつけてくれたボランティアコーディネータ

資料 1

川口町災害ボランティアセンター 組織体制 (11/20版)



一の指導で、各班のボランティアスタッフ毎に毎日ミーティングを重ねながら、全体ミーティングで調整を図る方法で運営を行った(資料1)。

また住民は全て避難しており、町内のボランティアグループを始めボランティア活動に参加を望めないような状況の中で、町の老人クラブのかたの協力を得ることができ、地理案内等に大きな力となった。

資金面は、共同募金会からの配分金を中心として、各団体からの寄付金、個人からの寄付金により運営資金とした。

活動にあたって

住民は災害のボランティア活動についての知識がないため、まず住民に内容を知らせる必要があった、そのために10月31日にはぬくもりニュース第1号を発行し生活情報として、入浴施設、物資、ライフライン、ゴミ、医療、健康、治安、宿泊、道路情報を流した。

また、当初の混乱期には様々な人たちが町に入ったため、住民は不安に思い、ボランティアを受け入れない地区も出てきた。

そのために、ボランティアセンターでの受付を徹底させ不審者を見かけたら、地元の警察と連携をとりながら対応をした。

ボランティアに対しては、「別紙ボランティアのみなさんへ」(資料2)を配布し、心得や注意事項を徹底させた。

宿泊については、当初ボランティアが持参したテントや車中泊であったがその後小学校の1部を借りて宿泊所にし、冬季間はプレハブのボランティアセンターの一部を

宿泊施設として対応した。

ボランティアセンターを維持するために、食事が必要であったが、町内の店舗は閉じており、食事当番を作る必要があった。11月初めから12月20日までの間毎日3食スタッフのための食事を提供した。材料の調達には食事当番スタッフがあたり大変な苦労があった。

また、トイレの清掃や、ゴミの処理などをする、ゴミ班を作りボランティアセンター内の縁の下の力持ちとして活動を行った。

住民からの信頼を得るために、被害の多い地区に支所を設け長期ボランティアスタッフが責任者になり、住民からのニーズを拾い上げて活動につなげていった。

ボランティアの健康管理は大変重要であり日赤防災ボランティア班が救護班をつくり対応にあたった。

活動内容

10月30日から5月31日までの活動内容は(資料3)のとおりである。

支援物資の整理、配布、家屋内の片付け、瓦礫の撤去、家具の移動、障子張り、農作業の手伝い、ゴミだし、自衛隊の風呂の受付、接骨師会による治療、訪問入浴車による入浴、避難所におけるの見守り及び看護活動、炊き出しの手伝い、風呂のサービス、ぬくもりニュースによる情報の発信、仮設住宅への引越し手伝い、仮設住宅の玄関の囲い、仮設住宅への支援物資の配布、家の周りの除雪等様々な活動を行ってきました。

ボランティアのみなさんへ

川口町災害ボランティアセンターにお越しいただきありがとうございます！

1、ボランティアのこころえ

- ・依頼者の気持ちを尊重してください。相手によって望んでおられることは違ってきます。自分に合わせて活動するのではなく、相手に合わせて無理強いないように活動して下さい。
- ・「させていただく！」の精神で活動しましょう！
- ・休日とはせつかく来ていただいても、作業がない場合があります。善意の押し付けはやめましょう。手が足りているという、良い傾向なので喜びましょう。どうしても何かやりたい場合は、自分で作業を見つけてください。
(例：ボランティアセンターの清掃、スタッフのお手伝い等)

2、被災地で活動をする時の注意

- ・カメラなどの撮影は控えてください。被災者のプライバシーを守りましょう。
- ・グループで必ず行動してください。単体行動は危険であるとともに、住民の方から不審に思われることがあります。グループで1人はIDを付けてください。
- ・状況判断を各自で行い、危険な場合や手に負えない場合は、断ってください。

判断に困ったときは、災害ボランティアセンターへ連絡してください。
090-9386-9936

- ・安全には十分に注意してください。(ガラス撤去時は皮手袋着用！)
- ・「できる」と言ったことは確実にやり遂げましょう。できないことはできないとはっきり言いましょう。
- ・お礼や謝礼は受け取らないで下さい。出されたお茶やジュースくらいであれば気持ちよく頂きましょう。
- ・現地で物資の供給を頼まれた場合、緊急時を除いて各自で取りに来て下さいますようお願いください。
- ・依頼された以外の活動は活動班へ連絡、相談して下さい。
- ・活動に使用する自家用車両は、駐車場も含め各自の責任でご使用いただくよう、お願いします。
- ・ボランティアをする際はガムテープなどで名前、番号等を分かり易い位置に書いてください。
- ・トイレはできるだけセンターで済ませるようにして下さい。現場の簡易トイレは現場の管理下にあります。
- ・ゴミは必ず持ち帰るように心がけて下さい。現場やボランティアセンターにゴミを残さないようにしましょう。

●ケガをしたとき

- ・リーダーに報告してください。
- ・ひどいときは、救急車を呼んで下さい。
- ・ボランティアセンター本部に連絡してください。緊急連絡先：080-9386-9729

3、活動が終わったら

- ・16:00 までにボランティアセンターに帰り、戻ると必ず報告をしてください。戻れない場合は必ず連絡して下さい。
- ・明日以降の活動継続を希望されるかどうかを、依頼者に確認してください。
現地で今日行った作業の他の作業で希望があった場合は、ニーズ表(日時、内容、期間、連絡先、氏名)に必ず追記してください。
- ・泊まる方は、近隣の住民、テント村の住民に配慮して夜は静かに眠りましょう。

もう少し深く活動に関わってみたいという方や、長期(3日～)で活動可能な方は積極的にスタッフに参加して下さい。当ボランティアセンターのどの部署も長期スタッフを必要としています。希望する仕事や資格・特技があれば、受付名簿に記入するとともにスタッフに申し出て下さい。
また、新たな活動を提案したい方、スタッフに一声かけて下さい。



この川口町は…

この震災で一番震度が大きかった地域です。避難所自体が被災してしまった所もあります。車の中などででの厳しい生活を余儀なくされている方もいらっしゃいます。避難をしている方の場所は分かっているだけで 40 箇所ぐらいあります。しかし、もともと、とても住める農村で、自活ができる状態のところもあります。また地域コミュニティもしっかりしています。川口町ボランティアセンターでは地域の方が早く安心した生活を送れるようになるよう、試行錯誤しながらはなりますが、お手伝いをしていけたらと思います。

また、元気もりもり隊の名称で、仮設の集会所を中心にお茶会などの活動とともに、子供のとのふれあい、お年寄りとのふれあいなどを通じて心のケアの活動を行ってきました。

まとめ

川口町は小さな田舎町ですので、いままで災害ボランティアに対する対応は全くありませんでした。

大震災という大きな災害に見舞われた場合には、住民の力や行政も限りがあります。地元のボランティア参加者がほとんどいない中、県内特に県外のボランティア方が多

数参加しての活動となりました。

住民は最初不安や戸惑いがありましたが、次第にボランティア活動に理解や感謝をしていただくようになりました。

昨年の10月30日から5月31日まで約7ヶ月間の長期にわたる災害ボランティアセンターの活動となりましたが、ボランティアセンター活動が意義あるものとなったと思います。

最後に全国から延べで28,470人の参加をいただき、また支援物資や、義掲金、寄付金、励ましの手紙など全国の皆さんから多大な支援をしていただきましたことに対して衷心より感謝申し上げます。